

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2010.11.8

No. 56

給料に見合った仕事が出来ますか？



会社を選ぶときに、「給料の高低に」まず目がいきがちです。「この会社は給料が安いからいやだ」というようなことを平気で言っていますが、企業が一人を採用すると新卒の高校生であれば人件費だけで年間 200 万円くらいがかかっています(給料、ボーナス、各種保険、諸手当等)。では皆さんは入社した 1 年目に、自分の給料分の利益を出せるだけの仕事が出来ているのでしょうか。2～3 年経ち仕事を覚え慣れてくれば、ようやくそれなりの戦力になりますが、それまでは他の社員の方に支えられているのが現実です。

確かに給料が高ければ高いにこしたことはありませんが、自分が給料に見合うだけの仕事をしていないのに給料ばかりを要求しても無理な話です。現在中国では月給は平均 1 万円くらいですが、日本では高卒の皆さんの初任給は 15 万円前後です。中国では優秀な人を月 1 万円で雇えるのに、日本ではまだあまり仕事の出来ない皆さんにその 15 倍の給料を払うわけです。これは企業にとって大変なことです。皆さんが優秀な中国の人の 15 倍の仕事がこなせるわけではありません。そのために企業は日本国内から、より人件費の安い海外へ工場を丸ごと移しているようなことになってしまうのです。

全ての企業が海外に出て行けば、企業は利益を上げて、国民は働くところが無くなり大変なことになってしまいます。そこで企業は国内ではより付加価値の高い(利益の出せる)仕事を残しています。今の日本の企業はこうした厳しい国際競争に勝てるよう頑張っているのです。皆さんにも入社後はそれなりの力を発揮してもらわないと、皆さんの雇用を維持できなくなってしまいます。

もらえる給料の額だけに囚われるのではなく、こうした企業の置かれた現実を見つめて、その企業を支える一人として各企業に少しでも貢献できるよう頑張ってください。



就職未決定者二十数名

今年も就職希望者にとっては厳しい年となり、まだ就職先が決まらない生徒が大分残っています。この中には結果待ちや、すでに応募書類を提出し試験待ちの人もいますので、全くあてがないわけではありません。この数字だけで判断してもいけません、厳しいことには変わりありません。しかも二次試験でうまくいかなかった生徒も何人か出はじめています。

まだ卒業見込みが出ずに、就職活動が出来ない生徒も何人かいます。卒業式までに全員決まるのだろうかという不安もあります。今のところ支援員の唐澤さんに企業を見つけていただいています。唐澤さんをお願いできるのも 12 月いっぱいです。その後はハローワークと連携しつつ学校で探さなくてはいけなくなります。一見すると今新しい会社が次々に出ていっているように見えますが、いつまでも新しい会社が出てくるわけではありません。まだ決まらない人はあまり贅言を言っている余裕はなくなりつつあります。今求人が出ている会社で、誰も応募していないところもありますので、早め早めに決断しましょう。